

社会教育実習 体験記2025

能登青少年交流の家

人間科学部 人間科学科 3年 永喜 若菜

実習を通して、社会教育が子どもの成長を支え、その“良さ”を発見する重要な場であることを実感した。特にリフレッシュ夏キャンプでは、子どもが安心してチャレンジできる環境づくりの大切さを学ぶことができた。安全確保などの物理的環境に加え、失敗を受け入れる雰囲気やポジティブな声かけといった精神的環境が、子どもの挑戦意欲を大きく支える。

社会教育の現場で多様な価値観を持つ大人が関わることで、学校では評価されにくい個性にも気づくことができ、子どもたちの自信につながる。今回の実習を通じて得た学びから、今後は自分も他者の良さを見つけられる大人として社会教育に関わりたいと強く感じた。



東京防災救急協会

法学部 自治行政学科 3年 鈴木 仁翔

本所防災館での5日間の実習では、地震・火災・風水害などを体験型で学ぶ防災教育の現場に携わった。開館準備からツアー補助、来館者案内、安全確認、売店対応まで幅広く経験し、後半には地震体験ツアーの説明役も任された。利用者は高齢者や子どもだけでなく、観光客や企業研修、外国人など多様で、防災館が社会全体に開かれた施設であることを実感した。実習を通して、防災は知識を持つだけでなく、相手に分かりやすく「伝える力」が重要であると学んだ。来館者の反応を見ながら説明を工夫する中で、自分の言葉が誰かの安全につながる責任も感じ、将来消防士として防災教育にも関わりたいという思いがより強まった。

横浜市教育委員会

経済学部 経済学科 3年 西村 杏雪

実習先の横浜市教育委員会で、社会教育の実習を行った。実習では、子どもアドベンチャーカレッジを中心に、企業やNPOが行う体験型プログラムの見学・運営の補助に参加した。学生サポーターとして子どもと関わる中で、短時間の関わりでは信頼関係の形成やコミュニケーション促進が難しいことを実感し、安心できる関係性や関わり方の重要性を学んだ。また、地域づくりにおける行政の役割は、住民や子どもが主体的に関われる土台を整えることであると理解を深めた。実習を通して、地域と学びをつなぐ社会教育の意義と、主体的に行動する姿勢の大切さを学ぶ機会となった。



夜須高原青少年自然の家

法学部 法律学科 3年 菱川 太地

私は、「72時間チャレンジキャンプ」の運営支援に携わった。実習では、キャンプ中では班付きのサポートとして参加した。また、実習生として、チャレンジキャンプの準備・片付け・参加者に対する支援、施設利用者に対する受け付け、対処点検などを行った。学んだことは、指導者として安易に答えを与えず、子どもの試行錯誤を「待つ」ことで生きる力を育むという「引き出す姿勢」の重要性である。また、安全管理や良好な職場環境を作るためには、日常的な会話でコミュニケーションが不可欠であると実感した。今後は、この場で学んだことを教育や地域社会に携わっていく中で活かしていきたいと考えている。

那覇市若狭公民館

人間科学部 人間科学科 3年 与那覇 新菜

私は那覇市若狭公民館で5日間の実習を行い、上映会や多文化カフェ、アート部、喫茶むすぶ、ウォーキング講座など地域に根ざした多様な事業に参加した。活動を通して、公民館が地域住民にとっての「居場所」として機能していることを実感した。特に、強制のないゆるやかな関わり方や、人とのつながりを通して安心感が生まれる点が重要であると学んだ。また、公民館が利用者目線で常に形をアップデートしている姿勢にも感銘を受けた。今回の実習から、居場所づくりには関係性の構築や受容の姿勢、批判的思考による改善が不可欠であると理解し、今後の自身のビジョン実現に活かしたいと考えている。

